

※掲載している授業科目、所属等は2015年度の情報です。

## 基盤科目群

頭で考え、文章にまとめる。  
ここで培った経験が、  
大学で学ぶ際の基礎となる。

星 周一郎 教授  
(都市教養学部 法学系 法律学コース)

専門教育への導入の役割を持つ基盤科目群。星先生が指導するのは、知っているようで知らない刑事法の分野です。法律への理解を深めると同時に大学での学び方も身につける。そんな授業内容について聞いてみました。

「刑事法入門」はどのような授業で、  
どのようなことを目標にしていますか？

**犯** 罪に関する報道を目にした際、「こうした行いは良くない」といった意見を持つことは誰にでもできます。けれども法律を学ぶのであれば、その罪を犯した人の何が悪くて、それに対してどのような制裁を科せばいいのかといったことまで考えられるようにならなければなりません。そうした自分なりの意見の理由を考えるのと同時に、それを文章化するという訓練を重ねることで、他者に自らの見解をきちんと伝える基礎技法を身につけてもらいたいと思っています。授業では教科書は指定せず、自分で作った詳細なレジュメを学生に配布するのが私のスタイルです。レジュメではなるべく身近な話題や最新のニュースを採り上げるようにして、学生が関心を持ち、前向きに取り組めるよう心がけています。学生が法学を学ぶ上での導入科目なので、取り組みやすさには常に配慮しています。



授業ではどのようなことに取り組み、  
どのような改善を行っていますか？

**毎** 回、その日の講義で指導する内容をレジュメに詳しくまとめて配布することには、賛否両論あるかもしれません。ただ、私が作成するレジュメは講義の詳細を記しているのではなく、要点を簡潔に書き記しただけのものです。そのレジュメだけを集めても、講義の内容は見えてきません。大切なのは、そのレジュメに自分が講義で感じたことを書き込みながら、学んでいく姿勢です。常に内容をアップデートさせるので手間もかかりますが、それだけの意味があると思っています。またレジュメの最後には、「論点」と題してその日の講義の復習となるような内容の小問題を追加。学生の自主的な学びのきっかけを作っています。さらに、文章作成の訓練のために、学生のレポートを添削し、コメントを付けて返却することも行っています。

この授業で今後取り入れたいこと、また授業を履修する学生に  
伝えたいメッセージはありますか？

**近** 年は電子黒板を使用したり動画を活用するなど、さまざまな機器を取り入れた授業が多く、学生の関心の喚起に役立っていると感じます。ただ、配布した紙のレジュメをもとに、学生が頭の中で思考を巡らすといった、私のスタイルのような授業も意味があると考えています。基盤科目という性格上、履修する学生の多くが1年生生なのですが、授業を通して考えたことを文章にまとめるといったことのトレーニングにもなるよう心がけています。年次が上がればさらに学生同士での議論も活発になります。「大学生活で初めて勉強した気がしました」というゼミ生もいるほどです。伝統的な講義から得られることも、学生には感じてもらいたいですね。

学習  
サポート  
企画

## STA シニア・ティーチング・アシスタント

大学院生が  
授業をしっかり  
サポート

本学では授業補助体制を強化し、学部学生に、より考えさせる授業を実施するため、ティーチング・アシスタント(TA)制度を導入しています。大学院生の教育訓練の機会としても有効なこの制度。中でも指導力・企画力を要する高度なTA業務は、シニア・ティーチング・アシスタント(STA)として、博士後期課程で学ぶ大学院生が担当し、授業をより円滑に進めます。



シニア・ティーチング・アシスタント  
西澤 文勝 さん  
都市環境科学研究科  
地理環境科学域 博士後期課程3年

STAとして、授業での進行や地質調査の補助を担当しました。私自身にもいい経験となっただけでなく、研究室における縦のつながりを築けたことが、学部生にもプラスになったのではないのでしょうか。

今回答えて  
くれたのは…

教員と学部生の架け橋となる存在に。  
STAという立場で、授業を支援していきます。

**Q** シニア・ティーチング・アシスタントになると思ったのはどのようなきっかけからですか？ また、どのようなことを担当しているのですか？

**A** 担当の先生からオファーがあったからなのですが、私としても教える側からの視点を持ち、まだ専門的な視点を持っていない学部生を指導することを自分のプラスにしたいという思いがありました。「地理環境科学研究法」という3年生の授業で、授業での司会進行と質問への対応、そして夏季に行われる現地調査時の補助を主に行いました。授業では、毎回行われる学生の発表に対する指導に気を配りました。

**Q** 授業で学生と接する際、どのようなことに注意をして指導を行いましたか？

**A** 学生の発表では、現時点では合格点でも、先を見据えた場合にはもう少し考えてほしいという部分がありました。そういった指摘を含めて指導したのですが、私の思いがきちんと伝わったのか、少し気になっています。言われたから直すのではなく、「なぜ直す必要があるのか」を理解させることの難しさを感じました。



現地調査で指導をしている様子

**Q** STAをどのように活用してもらいたいですか？ また学部学生の皆さんに伝えたいことを一言お願いします。

**A** 専門科目の授業を担当したことで実感したのですが、指導した学生の多くとは、ゼミでも先輩・後輩として接することになります。STAという制度を通して築いた関係を活かして、今後も気軽に質問などをしてもらいたいですね。

担当教員より一言

白井 正明 准教授



これまでこの授業には大学院生が参加していましたが、彼らは自分の授業の一環としての参加でした。今回D3の西澤君にSTAとして参加してもらい、授業がとても活性化したと思います。教員と学部生の中間のような存在であり、指導する側の視点も持つと同時に、学部生の相談にも気軽に応じてくれる点が、STAの良さではないのでしょうか。STAが浸透することで、学科内でさまざまな人間関係が生まれ、研究のプラスになることを期待しています。

### 編集後記

「Study+」第3号はいかがでしたか？今回ご紹介したように、先生方やSTAは、それぞれの立場から、学生の理解を促し、より深い学びにつなげるために、様々な工夫を行っています。ですから、学生の皆さんには、ぜひ学期末の授業改善アンケートを利用して、受講者の「生の声」を先生に届けてほしいと思います。それが授業の改善、ひいては大学全体の教育の改善につながっていきます。

これからも皆さんの深い学びにつながる情報を発信していきますので、よろしくをお願いします。  
FD委員会事務局

Study+ 2016春号(第3号) 編集発行:首都大学東京FD委員会  
登録(28)4

リサイクル適性(A)  
この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。

深い学びにつなげる [スタディプラス]

# Study+

Vol.03  
2016.SPRING

あなたの声で  
授業が変わる！

## 授業改善 裏側潜入レポート

## 結果発表！ 授業改善アンケート

## あなたは知ってる？ STAによる授業サポート

授業  
改善

## 裏側潜入レポート



理系共通基礎科目

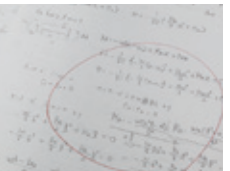
毎回の小テストや  
計算過程を見せることで  
学生の理解度を深める。

小林 訓史 准教授  
(都市教養学部 理工学系 機械工学コース)

多くの工学分野の基礎となるのが材料力学。その知識をきちんと身につけていることが、専門分野で学ぶ際には必須となってきます。この材料力学を担当している小林先生に、指導のポイントについて語ってもらいました。

「材料の力学第二Ba」はどのような授業で、  
どのようなことを目標にしていますか？

**モ** ノに力を加えると、どのような影響を受け、どのように変形するのか。それが力学で学んでいくことです。世の中にあるモノは、必ず何らかの力が加わっています。私たちが何かのモノを設計する際に強度を維持するためには、必要な部材で発生する抵抗力やひずみを算出するための知識が不可欠になってきます。このように理工学分野では重要な意味を持つ学問なので、1年次から2年間をかけて、力学の「引張、ねじり、曲げ」といった諸分野について学んでいきます。「材料の力学第二」は、そうした基礎的な学問の最終段階と言えます。3年次以降はここまでで学んだ内容を踏まえ、一次元から二次元、三次元の力学へと拡張していくことに。そのためにも、しっかりと学んでもらいたいと思っています。



授業ではどのようなことに取り組み、  
どのような改善を行っていますか？

**大** 学の講義の理想は、学生がしっかりと予習を行い、そこで得た疑問を講義で教員にぶつけた上で復習につなげていくことだと思っています。アクティブ・ラーニングの考え方を取り入れた講義スタイルですが、実際にはこの講義を受ける学生はまだ年次も低く、そこまで能動的な学びの習慣が身につけていません。そこで私の講義の冒頭で必ず行うのが小テストです。前回の授業内容を中心に出題する簡単なものですが、この小テストが必ず行われることを学生も認識しているので、復習を欠かさなそうです。また私の講義では計算過程をすべて黒板に書いています。結果だけでなく過程も学生に理解してもらいたいので行っているのですが、解きながら書くのでどうしても字が乱暴になってしまいがちです。その点は学生からも指摘されるので努力はしていますが、学生が書き写すうちに計算のノウハウを身につけてくれればと思っています。

この授業で今後取り入れたいこと、また授業を履修する学生に  
伝えたいメッセージはありますか？

**テ** ストなどの工夫が功を奏しているのとは分かりませんが、今年度は講義中に学生から多くの質問を受けました。もしかすると、「理工なんでも相談室」という院生による学習サポートの効果などもあるのかもしれない。私がある場では答えられないような質問を投げかける、意識の高い学生もいます。そうした学生には回答に加えて、材料力学だけでなく設計に関する本を読むように勧めるといったことも行っています。材料力学は工学の基礎となる重要な学問です。今後は学生の理解度を深めるためにも、実際のモノを授業で使用できればと思っています。「どの程度の力を加えるとどれくらい曲がるのか」といったことを視覚的に理解できるよう、簡単な実験装置などを用意したいですね。

FD  
TOKYO METROPOLITAN  
UNIVERSITY



首都大学東京  
TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

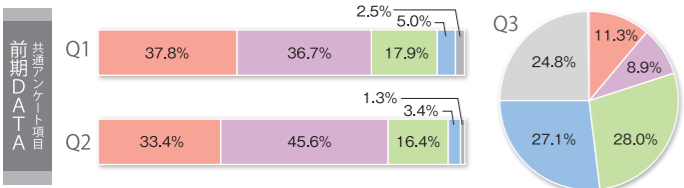
# 2015年度版 授業改善アンケート結果

実施期間 前期2015年7月9日～27日 / 後期2016年1月7日～25日

アンケート結果の詳細はFD委員会ホームページに掲載しています。  
http://www.comp.tmu.ac.jp/FD/

## 基礎ゼミナール

前期▶履修登録者数 1,660人:回収数 1,309人 回収率 78.9%/授業数 82クラス:実施数 71クラス 実施率 86.6%  
※前期のみ実施



### 学生 こんな意見・提案がありました

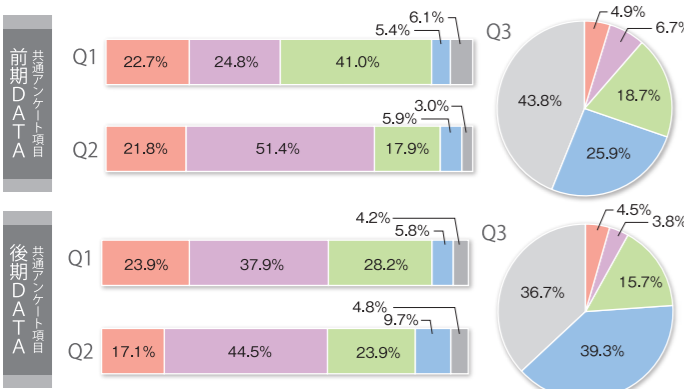
- ・ディベートでは慣れないながらも意見を述べる練習ができてよかった。
- ・グループで発表する形式だったので自主的に取り組めた。発言しやすい空気があったよかった。
- ・短い時間で発表の準備を行わなければならないので、内容が薄いものとなってしまった。

### 教員 こんな改善を行いました

- ・希望のあったディベートを実施した。今年は発言しがらない学生が多かったので、ディベートで話をさせる機会を設けてよかったと思う。
- ・グループによる調査と発表を実施した。学生同士の交流が促進され、その後の発表における討論が活発になったような気がする。
- ・昨年度は教員側から説明した後テーマを決めていたが、アンケートの要望に基づき、説明を少なくした。グループ別の調査にかかる時間が増えたことにより発表内容の質が良くなった。

## 情報科目

前期▶履修登録者数 1,671人:回収数 1,363人 回収率 81.6%/授業数 38クラス:実施数 37クラス 実施率 97.4%  
後期▶履修登録者数 476人:回収数 315人 回収率 66.2%/授業数 19クラス:実施数 19クラス 実施率 100.0%  
※前期は「情報リテラシー実践Ⅰ・Ⅱ」、後期は「情報リテラシー実践Ⅱ」で実施



### 学生 こんな意見・提案がありました

- ・チューターとうまく連携を取りながら授業を進めていき、質問なども積極的に聞いてくれたのでとてもよかった。
- ・授業の進行が少し早い。分からないところが出てきたとき、質問している間に次に進んでしまうため、結局分からないことが増えて遅れをとってしまう。
- ・レジュメにパソコンの画面の画像が多く載っているため、実際の処理の際に分からなくなったときに助かった。

### 教員 こんな改善を行いました

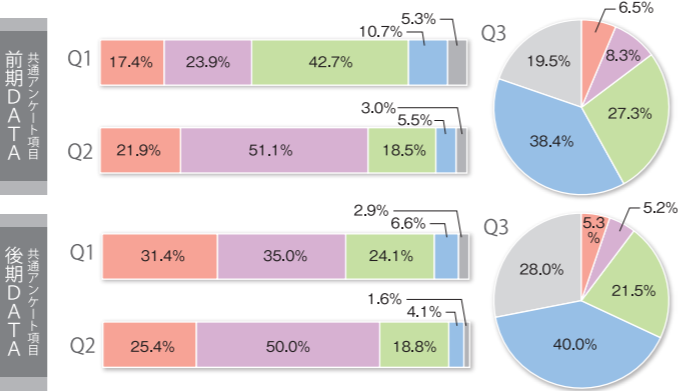
- ・授業用課題の進行途中で、作業が進んでいない人数の確認、周りの学生同士による情報交換を促し、チューターと教員による指導を行った。
- ・コミュニケーションカードを用いて、学生の理解度や意見・感想を踏まえて授業中に扱う内容の時間配分や難易度の調整を行った。学生の理解や要望を把握しやすくなり、翌週の授業でフォローする内容や難易度の調整に役立った。
- ・昨年度の講義において、説明の際に利用した図を資料中にも入れて欲しいとの要望が学生からあったため、今年度は授業資料に図を入れるようにした。

**共通アンケート項目**

Q1 この授業のシラバスは、授業を選択し、学習するうえで役立つ内容だった。  
Q2 授業全体を振り返って、あなたはこの授業を理解できた。  
Q3 授業時間以外で一週間に平均どのくらい、この授業に関連した学習をしましたか？(予習、復習、課題、試験勉強、この授業の理解をさらに深めるための自主学習を含む。)

## 実践英語科目

前期▶履修登録者数 1,721人:回収数 1,427人 回収率 82.9%/授業数 94クラス:実施数 84クラス 実施率 89.4%  
後期▶履修登録者数 1,587人:回収数 1,235人 回収率 77.8%/授業数 84クラス:実施数 74クラス 実施率 88.1%  
※前期は「実践英語Ⅰa」、後期は「実践英語Ⅱb」で実施



### 学生 こんな意見・提案がありました

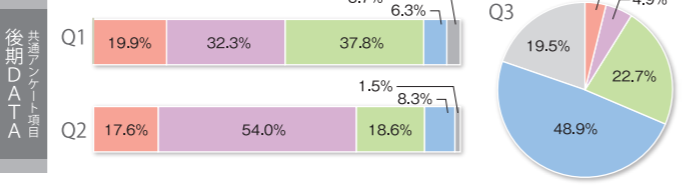
- ・もっと色々な人に質問をふって授業に参加させてほしい。
- ・音読練習は、最初は面倒だと思ったが、授業で「こんなに変わるんだ」と教えてくれたので積極的にやるようになった。これからも続けていきたい。
- ・ただ文章を読むだけでなく、クラスワークや音読会があって楽しんで取り組むことができた。

### 教員 こんな改善を行いました

- ・全員に一度は当てるように心がけた。学生が緊張感をもって授業を受けている。
- ・発音の練習をもっと取り入れてほしいという声があったので、極力その練習を取り入れた。声が出る練習では学生たちはいきいきしていると思う。
- ・ディスカッションとディベートの練習を取り入れた。大多数の学生がより積極的に授業に参加するようになったが、話すことを好まない学生もいるので、そういう学生の学習意欲を高めるために、更なる工夫が必要だと思う。

## 未修言語科目

後期▶履修登録者数 2,154人:回収数 1,524人 回収率 70.8%/授業数 108クラス:実施数 90クラス 実施率 83.3%  
※後期のみ「ドイツ語Ⅰ」「フランス語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「朝鮮語Ⅰ」で実施



### 学生 こんな意見・提案がありました

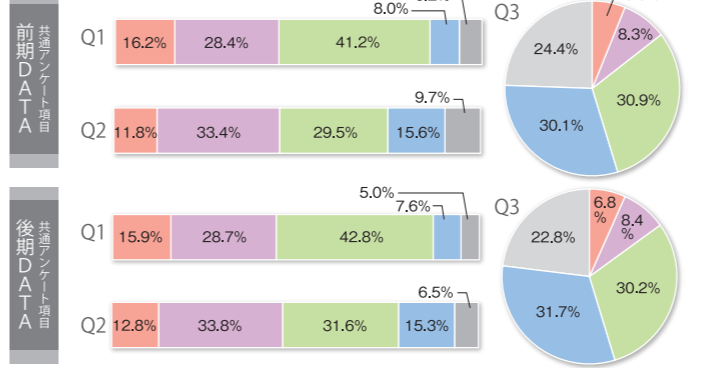
- ・映画を何度か見たことで、文化理解とともに、単語の理解度も上がっていることが実感でき、やる気が上がった。
- ・小テストの頻度を増やしても良いのではないか。
- ・チェックシートは学習の計画を立てることに非常に役に立った。

### 教員 こんな改善を行いました

- ・テキストに関連する視聴覚教材を例年より多く利用した。ある程度複眼的な文化理解につながったかと思われる。
- ・小テストを多くした。理解の定着に効果があったと思う。
- ・夏休み補講での前期末テスト返却、重要文法事項チェックシートを含む予習用冊子の配布などを試みた。昨年度より(前期末)試験の平均点が明らかに高くなったので、効果を感じた。

## 理系共通基礎科目

前期▶履修登録者数 4,762人:回収数 3,545人 回収率 74.4%/授業数 65クラス:実施数 63クラス 実施率 96.9%  
後期▶履修登録者数 3,733人:回収数 2,581人 回収率 69.1%/授業数 58クラス:実施数 51クラス 実施率 87.9%



### 学生 こんな意見・提案がありました

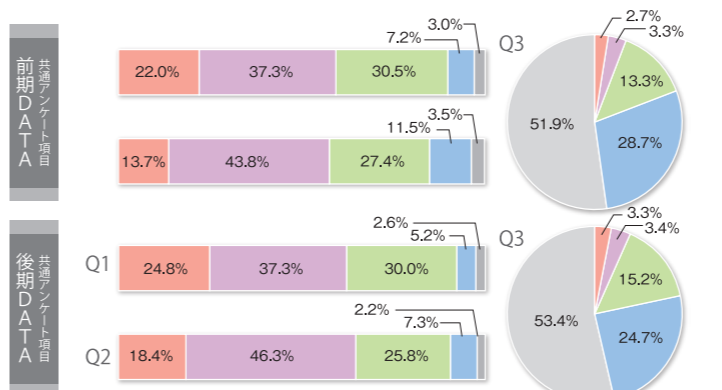
- ・レポートの書き方について、もう少し指導してほしい。
- ・毎回小テスト・課題提出があったため、着実に理解ができた点よかった。
- ・パワーポイントを後日ダウンロードできたら復習しやすいと思った。

### 教員 こんな改善を行いました

- ・実験ノートの書き方も授業のレポート提出時に見るようにした。学生の目的、方法、結果、考察のまとめ方が向上した。
- ・自習時間を増やすためにレポート課題を増やした。以前より授業をきちんとフォローしているように感じている。
- ・電子ファイル資料をWebで配布した。電子ファイルをiPadで見ながら授業を受けている学生がいて、有効利用されている。

## 教養科目群・基盤科目群

前期▶履修登録者数 11,625人:回収数 6,203人 回収率 53.4%/授業数 93クラス:実施数 80クラス 実施率 86.0%  
後期▶履修登録者数 9,378人:回収数 4,733人 回収率 50.5%/授業数 95クラス:実施数 76クラス 実施率 80.0%



### 学生 こんな意見・提案がありました

- ・最近話題になっている出来事に関連しているものから取り扱って学びやすかった。
- ・実際にロボットを持ってきて、説明を工夫していたところがよかった。
- ・パワーポイントを使うのはよいが、スピードが速くて授業だけでは理解しづらい。ネットでその資料が見られるようにしてほしい。

### 教員 こんな改善を行いました

- ・最新技術に関する内容を含め、SNSやスマートフォンを利用したシステムなど身近な題材を取り上げた。さらに、研究室見学を実施し実際に見て体験できる機会を設けた。
- ・具体例をもっと多く示してほしいとの要望があり、今年は多く示すようにした。昨年より興味をもって受講してもらえたと思う。
- ・Kibacoで授業の予定を伝え、配布資料をアップした。

FD委員から  
学生の皆さんへ

2015年度FD委員会委員

健康福祉学部作業療法学科  
繁田 雅弘 教授



みなさんの大学での学習は教養・基盤科目群などの全学共通科目にはじまって、2年生または3年生から専門教育科目を中心とした学習に移ります。自分の志す専門の科目を早く学びたい人も多いのではないかと思います。まずは専門にこまらず、むしろ自分の専門から大きく離れた科目を“楽しんで”勉強しておくことを勧めます。いずれ専門科目ばかりの学習になりますし、後から教養科目を勉強したくなくてもその余裕はないからです。1年生(健康福祉学部以外の学生は2年生も)のうちは幅広く学ぶことを勧めます。

専門科目を勉強し始めると、始めは戸惑いつつもじきに慣れます。学ぶ科目は互いに密接に関連していますから、効率よく学べるようになります(その分、教養科目よりはるかに多くの内容を吸収するよう求められますが...)。しかし、カンが身につくまで効率よく学べるということはどういうことでしょうか。それは知らず知らずのうちに、専門の知識だけでなく、専門科目が前提とする基本的な姿勢や考え、場合によっては信念や哲学が刷り込まれることです。それは効率よく学ぶために避けられないことですが、事象を観るときに一定の先入観を持つようになることでもあります。そうなった時に、自らの専門知識や技術をマクロの視点で位置づけることができる人間であってほしいのです。そのためにはいわゆる教養と呼ばれる幅広い見識が必要なのです。それができる人が、自分の知識や技術を社会の中で位置づけることができ、判断を大きく誤ることがなく、また自分のもっとも活躍できる場を見つめることができる人だと思っております。

FDとは・・・Faculty Developmentの略。  
授業改善のための組織的な取組をいいます。

首都大学東京では、授業改善のための組織的な取組として、授業アンケートの実施や教員向けのFDセミナーの開催など、さまざまな企画・活動を行っています。学生の皆さんも、これらの活動に積極的にご参加ください！



## ～FDコラム～ 授業時間外学習

皆さんが受講している授業の多くでは、授業で使うテキスト以外にも参考文献が紹介されています。さらに、開講期間中に課題提出が求められる授業もたくさんあるはず。なぜ授業時間「以外」にも学ぶことが必要なのでしょうか。実は、大学の単位という制度自体が、一定の授業外学習を前提に作られているのです。大学設置基準には「単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもって構成する」と書かれています。つまり、2単位の授業であれば、90時間学ぶことになります。しかし授業は15コマですから、2時間×15回としても、1回の授業ごとに4時間ずつ予習・復習・課題などに取り組む必要があるのです。これを学生の皆さんの側から考えてみると、「授業に出席すれば単位がもらえる」と考えるのは間違っているということになります。また、平日に平均6時間の授業外学習をしているまじめな学生でさえ、一つの学期に16単位以上取るのは計算が合わないことになります。実際、他大学では一学期に16単位までしか取れない制限をしているところもあります。一度、履修している授業を通して自分自身の目標を達成するために、授業以外で何をすべきなのか考えてみませんか。

※文部科学省では、大学での学びのことを「学修」と呼んでいます。

授業改善アンケートの詳細やFDのトピックスは  
首都大学東京FDウェブサイトでも紹介！



アンケート集計グラフのほか、「Study+」のバックナンバーやセミナーの報告など、さまざまな情報を掲載しています。

スマホはこちらから▶

http://www.comp.tmu.ac.jp/FD/

